

野中ともよ(NHKニュース キャスター)

スポーツは、政治を越えた コミュニケーション



ニュースキャスターというと、今や花形職業として、い

つぱいいる。その中で、笑顔の美しさ、語学力、スポーツに対する知識のある人となると、この人が眼に浮ぶ。NHKのサンデースポーツペシャル等で活躍する、野中ともさんである。世界を駆けまわる彼女の「スポーツ観」について、じっくりと聞いてみた。

樂しまないところに、
進歩はない

仕事をがら海外へ行くことが非常に多いのですが、私の視点から「日本のスポーツ界」をみると、奇異に感じるところがあります。たとえば、共産圏の場合、「国策としてのスポーツであるから、『スポーツは楽しむべき』であるから」と記録を上げることよりも、「勝つこと記録を上げることに目標がある」とするのは、われわ

れの眼からみると、ちょっと変だなと感じますよね。これと同様に、日本でも、「○○道」というのは、奇異に感じるところです。たとえば野球なら、野球道みたいなものを感じるのです。

一生懸命やる事、いい汗をかく事が、ひとりのスポーツマンにとって必要欠かざる要素といわれていますが、それを計画通りにやり遂げていくトレーニングのマニュアルに合わせて実行していく。それぞれの人の個性に合ったマニュアルを作成して、それを計画通りにやり遂げていく……。そんな事が大切だと感じます。

に進歩はない——と私はどうしても

考へざるを得ないので。一生懸命やる事ではなくて、たとえば「記録を出す」とすれば、記録をどういう風につくっていくか——を計画的な

一生懸命やる事、いい汗をかく事が、ひとりのスポーツマンにとって必要欠かざる要素といわれていますが、それを計画通りにやり遂げていく……。そんな事が大切だと感じます。

日本の場合ははどうしても、ます全員集めて、一生懸命やるんだ——みんなくなってしまう。あの夕陽に向つて、みんなで走るんだ!——のようにな。(笑)だから、根性がないとダメ——になってしまいます。甲子園の高校野球をみてもわかるように、「根性」とか「口上の人に対するごいさつ」とかがまず初めにあって、次に、「気合を入れて」、「30周走って」、「血へどを吐いて」——でないと強くなれない、トーナメントに勝てない、みたいな風潮があるようだと思うのです。

トの選手」では、練習方法が全く異なります。ウエイトトレーニングも違うし、あてはまる「ラジッシュユアップ」も違うし……。コーチングスタイルは、実に科学的な方法で、選手たちを指導しているそうです。

「体育」とか「競技」というと、「根性」とか「気合」がなければならぬ——になつてしまふのですね。

さ　水泳だけで生きているわけじや
なし……。」と答えたのですよ。世界
一速い男が、さらりと言つてのける
のです。

自分の人生の中での「水泳」とい
う位置付けて、優れたバランス感覚
を持つてゐるわけです。

日本ではどうでしよう。たとえば
日体大に優れた選手がいるとする
「お前 日体大の名譽のために……。」
OB会、先生方も大いに期待し、本
人もプレッシャーを感じますよね。
「お前は強いから、この4年間で、こ

ように、国のエリート達が集まる大学があつたら、そこで頑張って、勉強の事も心配しないでガンガンやつて、「あなたは、これが得意なのだから、これをしなさい。おじいさんおばあさんになれば、たくさんの年金ができますよ。」となるわけです。

つまり、社会主義国では、全く違った形で、割り切れているようですね。まあ社会主義国以外でも、韓国なんかは、そうみたいですが。柔道の選手にしろ何の選手にしろ、とにかくアジア大会からオリンピック

各人に合ったマニコアルというの
は「リストが強い選手のためのマニ
コアル」、「足が速い選手のためのマ
ニコアル」があつて、「何のため」と
いう目標がますますあつて、それを無理

時間合宿所生活」とか「先輩後輩のケジメがどうのこうの」で、生活全體を束縛しているところがありますよね。たとえば、日体大の柔道部だとすると、「日体大の大学としての愛

意味も変わる

ノデイ
トメダ

なくこなして行くべきではないでしょ
うか。トレーニングのしかたが、各人全く異なるはずですから、最終的な目標は「勝つこと」でも、そのため各人がどういう役割を演じるか——をもう少し具体的に考えるべきだと思います。

校心」ではなくて、「日体大柔道部」みたいな感じで、その中の先輩・後輩の関係をたきこまるだけに見えることがあります。

は出場ませんでした。そこで「1500mに出場すれば、完璧にすべてのゴールドメダルを獲得できるのになぜ出場しないの?」との質問に対し、「だって、ボク水泳やるために生まれてきたわけではないし、大学でやって勉強したいからさ。長距離に勝つためには毎日3000m泳がなければならぬから大変さ。だからボクはいいの

とかではなくて、「好きか嫌いか」を確かめさせながら、うまく乗せる——そういうコーチングスタッフが、アメリカには多いようです。

社会主义諸国については、直接に聞いたことはありませんが、「優れた才能を持つ選手」なら一生食う困らない保証を——国家がしてあげるわけですね。たとえば日体大の

大学を卒業して企業に就職して、ローネーで家を何とかして——という中流意識みたいなものがありまよね。それに対して、「野球さえやれば、一生年金はもらえて、家は建ててくれるし、いい嫁さんにも恵まれるし——」というエリートになれるとか的な力がある。だから、頑張る——にならざるでしょうね。だから、スポーツで

スタッフが、日本ではまだまだかな
という気がします。○○道をたたき
こむのが美德で、「こいつはどういう
指導法が向いているのだろうか」と
考えるに至つてないのではないでし

は、試合に出られないのです。きちんと試験を受けていい成績を上げないと、ダメなわけです。全国のNCAで、そのへんの厳しい規制があります。

A blurry, close-up image showing a person's arm or hand, possibly wearing a dark sleeve. The background is dark and indistinct.

チームプレイの中で、どうやつ
チームワークをつくろうか——と科
学的に実行できる指導者が、日本に
は、まだまだ不足していると思いま
す。ですから、伸びる選手も伸びな
いまままでいる——ケースもまあある
ような気がします。

——学生が、学生時代に何をやるか――やはり勉強をやり、それでスポーツをやり、そして恋をする。(笑)木原美知子さんが、練習オフのとき口紅を塗つて歩いていたら、「何だ紅じゅうがを付けて……。」(笑)と言わされたとか。私生活を切り捨てて、でないと勝てない、という伝統が色

科学的トレーニングをぜひ…。

濃くあるようです。それで強くなつたかというと、決して強くなつてはいませんよね。



科学的トレーニングをぜひ…。

源である。それで強くなるか

コンプレックス持つ必要なし！

ただ、オリンピックにしろ何にしろ、スポーツを通じての国際コミュニケーションは、素晴らしい事だと思います。よく日本の方で、英語とかフランス語に対する、感じなくともよいコンプレックスを持つている方が多いようですが、そんなものは全く必要ありません。喋れなくて当たり前で、外国人が日本語を喋れるかというと、そうではないわけですから、大丈夫です。

バーボールの選手が、野球のボールを打てない事に恥なればならない——と思っていると同じようなものです。言葉は、道具でしかないのです。——とつくづく感じます。ましてや、そんな事でコンプレックスを持つ必要なんか全くないと思うわけです。

コンプレックスといえば、もうひとつ。言語の他に、大学であるとか会社であるとかに持つてる人が多いですね。一部上場の企業の人と中企業の社員、一流大学と呼ばれている大学と二流大学の学生——まるで「松竹梅」でもつけているよ。そこで、嫌ですね。一流だと胸を張つて自分の太字名・会社名を言い、そうでないと、ぼそぼそと言います。おずしてはあるまい（笑）、いやですね。そんな事は絶対感じるべきではないし、態度に出してはいけない事だと思います。

——ループレーなどをやると、凄く覚えるのが早いのには、驚かれます。

へたに頭だけで考えて、階段教室で寝てばかりいて、出席は代返してもらつて——という者よりも、自分で表現して、自分を遊ぶという事に慣れているので、臆する事なく習得できるのですね。

私は、英語できなくて、当たり前だけ、新体操ができる自信を持つているわけです。結局、そういう根っこを持っているから、何をやつても早く習得できるわけです。

日本で「体育系の」というと、「明るい」とか、「乗りがいい」とか、何となく「頭がよくなかった」という表現をする人がありますよね。自分でも、「ちょっと僕は馬鹿ですか……」なんて言う人もいる。（笑）

——英語を知つていれば、外国人と一緒に風に交流できて、こういう事だと思つては、体で表現する事が上手なので、英語とかコミュニケーション論とかの「人間関係の基本」を教えて、口

当の物差しのひとつでしかない。短距離走が得意な人とマラソンが好きな人とタイプが異なるように、「勉強の点数がうまく取れる人」と「人生を楽しめる人」と価値が全く異なるに違ひないので。

——勉強ができるorできない——なんて、小さな物差しのひとつに過ぎませんよ。第一、勉強ができるにして勉強ができるorできない——なん

て、小さい事だ。——小さな物差しのひとつに過ぎませんよ。第一、勉強ができるにして勉強ができるorできない——なん

て、小さな物差しのひとつに過ぎませんよ。第一、勉強ができるにして勉強ができるorできない——なん

歯を食い縛りたいか 食い縛りたくないか——は、自分自身が「頑張らう」と思ったときに決定づけられる事なのです。だから、いかに「歯を食い縛る」ようになさせるか——がコーチの役目だと感じます。

歯ぎしりをさせたり、涙を流さず下座しろ」みたいにして、何にもする事が。失敗したり、負けたりして一番悔しいのは本人ですからね。だから、「なぜ勝てなかつたか」、「何が不足していたか」、「どこを強化せよ」と考へるべきではないでしょうか。選手側も同様だと思いま

そこで、自分自身を冷静な眼でみつめる事が、新しいスポーツ界の有り方のような気がします。日体大には、ぜひともリーダーになって欲しいですね。あらゆる意味で、新しいスポーツ界のニューリーダーになつて欲しいですよ。先頭を切つて、やってもらいたいと思うのですよ。

スポーツというの、非常に大切な存在です。勝った負けた、記録が出て出でない——というだけのものではない。

スポーツは、まさに政治なのです。外務省レベルで何十年やつていても、国交が回復できないのに、「卓球」を通じて即國際交流ができたなんてこともありますよね。アフリカのどこを救おう——いう場合も、日本政府が必死に働きかけても、十億円集まるかどうかでしょうね。ところが、「チャリティワールドサッカーラー」がなんかを開催すると、一試合で何十億かが即集まってしまう。そ

れが、ポンとアフリカに寄付できる

と一緒にやつているのですが、いわ

細かい部分から大きな概念まで、あ

感じます。

口サンジエルスオリンピックにしても、放送権だ何だかんだで、何百

ゆるスポーツキヤスターという形ではなくて、最初にお話があつたとき、

らゆる情報に触れる事もできる訳ですね。

情報は、「力」ですよね。ですから、政治であれ経済であれスポーツであれ、とり混ぜて伝えていける人間になりたいと、私は思っています。



日体大は、新しいスポーツ界のリーダーに！

私自身も、今NHKのサンデースポーツスペシャルで、山本浩一さん

今、実際に放送してみて、非常に
おもしろいし、スポーツとは何ぞや
が少しつ判つてきたような気がし
ます。大先生から色々な事を教えて
いただいたり、ラグビー協会の方と
接したり、日体大のお話を聞いたり

他人事ではないわけですよ。当世では主婦の財テクに直接関わってくるのですから。オレンジにしろ、牛肉にしろ、同様ですよね。だから、肩の力を抜いて「地球で起っている色々な事を」さり気なく伝達したいと

億円が動くわけですよ。スポーツは、ビッグビジネスでもありますので、ビッグビジネスでもあり、政治であり、経済であり、人々の交流の文化のひとつであります。スポーツは、大変なボテンシャルティを持つてゐるのですね。ですから、これからス

実は「今までになかったスポーツ番組をつくるっ!」——ドムステイツクな視点ではなくて、地球単位の番組、現在海外ではどんな事が行われているかを並列に報道できる番組にしよう、という事で、私は「海外ウイークリー」から、こちらに回って

そうした中で「スポーツはこうす」とか「東西関係は、だいまべるリンで、こんな状況です」とか、今まで、政治のプロフェッショナル、経済のプロフェッショナルが、各々報道していくことをさりげと話していきたいですね。

そんな気持をいつも持って、プロードキャスターをやっていきたいですね。今は、スポーツというファイルターを通して「世界」をじっと見つめているわけですが……。
これからスポーツ界をリードしようとされている方は、特に、大きな眼で世界を見つめて、頑張って欲しいです。ね。変なコンプレックス、風習に惑わされないで、未来に向って前進して欲しいと思います。日体大生のみなさん、期待しています。ニューリーダーは、みなさん方です。

そんな気持をいつも持って、プロードキャスターをやっていきたいですね。今は、スポーツというファイルターを通して「世界」をじっと見つめているわけですが……。
これからスポーツ界をリードしようとされている方は、特に、大きな眼で世界を見つめて、頑張って欲しいです。ね。変なコンプレックス、風習に惑わされないで、未来に向って前進して欲しいと思います。日体大生のみなさん、期待しています。ニューリーダーは、みなさん方です。

ハの言葉で何をいひたいかと思うのです。それが「何のために」伝えるのかと言うと、NHKのためにとか、ジャーナリズムのためにとかではなくて、「1人でも多くの人間が幸せになるために」——なのです。少し大袈裟な表現かも知れませんけど、たかだかこのちっぽけな星に50億粒くらいのゴマツブがへりつ